

『視写の書』を用いた高校生の英語ライティング技能向上

山岡大基

本稿は、高校レベルにおける英語ライティング指導の一環として「視写 (copying)」を活用した実践について報告する。また、その背景として、視写という言語活動が持つ意義や期待される効果について概観する。従来、学校英語教育において、視写は、他の言語活動を行うための補助的な活動としてしか用いてこられず、視写そのものに積極的意義を見出して指導の対象とすることはほとんどなかった。しかし、国語教育・日本語教育においては、さまざまな言語活動を支える基礎として視写それ自体を対象とする考え方があり、その考え方は英語教育にも適用できる。具体的には、語句・構文など文章の細部への意識を高め、ただ読んだり聞いたりするだけでは気づきにくい事項に気づく機会を生徒に与えることや、パラグラフの構成について「お手本」を真似ることによる一種のイメージ・トレーニングができることが挙げられる。そういった効果に関して、本稿では、筆者の作成したオリジナル教材『視写の書』を使用した指導実践を生徒対象のアンケート結果を通じて検討し、継続した実践への展望を探る。

1. 高校における英語ライティング指導の壁

本校に赴任して以来5年連続で高校Ⅲ年生の「ライティング」(旧課程)「英語表現Ⅱ」(現行課程)を担当し、英語ライティングを指導している。本校生徒の場合、進路実現の観点から、大学入試での出題形式を踏まえて、和文英訳と、いわゆる自由英作文の二本柱で進めるのが通例である。各種の制限作文や語句・短文レベルでの創造的な作文も指導過程で取り入れることはあるが、授業時数の制約から、授業の骨格を成すほどに実施できてはいない。

また、書くことの技能については定量的にも定性的にも生徒の個人差が大きく、自然学級での一斉指導には限界がある。そのため、筆者の場合、pre-writing段階での理論的解説と、post-writing段階での生徒個々への添削指導と、そこから抽出される、多くの生徒に共通する誤りや偏りをフィードバックすることによって授業を構成している。しかし、これでは、生徒のライティング力向上にとって不可欠な while-writing 段階にほとんど関与していないことになる。

むろん、そのような指導でも一定の成果は見られ、特に、意見文を書く際のディスコース形成能力に関しては指導が奏功してきたと言える。¹⁾

しかし、その一方で、個別のトピック特有の語彙や、文法的な整合性を超えた「英語らしい」文を書く力については、個別の場面で個別の生徒に指導するほかなかった。つまり、同じことがらを異なる生

徒に対して、個別にその都度指導するので、なかなかクラス全体としてライティング・プロダクトの質が向上している実感を得られず、指導上の突破口を求めあぐねている状態であった。

そこで、目標とする質のプロダクトを生徒から引き出すことに腐心するのではなく、目標とするプロダクトそのものを明示し、それを強制的に生徒に書かせることで、生徒自身よりも上級の書き手のライティング・プロセスを部分的ながら疑似体験させ、そのことを通じて、上述の課題の克服を図ることにした。すなわち、一種のイメージ・トレーニングを意図したのである。その具体的方法が視写(copying)である。

2. 作文指導における視写

視写という学習方法は、英語ライティング指導においてはほとんど顧みられてこなかった。^(注1) 英語の授業において視写がなされることはあるが、それは板書をノートに書き写すことであったり、教科書の英文をノートに書き写して和訳するためであったり、テスト後の答え合わせ等で自分の書いた英語を自己添削するためであったり、すなわち何らかの他の学習活動を成立させるために必要な作業であり、視写それ自体が英語学習の方法として認識されることはまれである。筆者自身、高校生に対するライティング指導の一貫として視写を用いることはあったが²⁾、実際に行ってきた言語活動は視写をベース

にした書き換え・書き換えであり、純粋な視写自体はそれほど多用してこなかった。

一方、国語教育に目を転じてみると、小学校学習指導要領解説においても視写に関する記述が見られることから、主に入門期・初級段階では学習方法として位置づいている様子がうかがえる。また、中学校・高等学校の学習指導要領および解説には「視写」という文言は使われていないが、学習指導要領の記述の有無に関わらず、いわゆる「文章修業」の一環として新聞のコラムや美文・名文の類を視写することは一般的に行われることであり、国語指導においても「範文法」や「模倣法」等の名称において、その手法が用いられることは珍しくないようである。³⁾

視写の効果については、たとえば文部科学省は、いわゆる帰国生への補習授業という文脈で、次のようにまとめている。⁴⁾

視写の効果1…全般

1. 集中力をつける。
2. 字が上手になる。
3. 文章表現の技法を覚える。
4. 表記のルールを覚える。
5. 暗誦や記憶に役立つ。

視写の効果2…例えば、休暇中の「一日十分間視写」

1. 毎日続ける「根気」
2. 勉強時間の中に割り振る「計画性」
3. 準備や片付けをする「整理整頓」
4. 手本や文章を正確に読み取る「注意力」
5. 丁寧に書き続ける「集中力・持続力」
6. 書き終えてから点検する「自己省察（せいさつ）力」

人格形成的な価値が多いなかで、「文字」「文章表現」「表記のルール」に対して効果があるとされているのは注目に値するだろう。

また、巴野・柳瀬（2004）⁵⁾は、国語における読解指導の一環としての視写の効果について、次のように述べている。

本教材のように叙述の微細な点を綿密に読み取らせる活動のためには生徒の個々が表現の細部や微妙な言葉の使い方に気づくことができる視写や聴写の作業は有益である。単なる問答法や教師の一方的な解説による指導では、注意すべき表現や事象が気づかれぬまま流れてしまいがちで不徹底になる。この弊を改善するためにも、平素から適切な教材で適時に視写や聴写活動に習熟させる学習訓練が積み重ね

られることが必要である。視写・聴写の作業は一斉学習として同時に行われるが、作業結果には個人差が現れるので個人に対応するきめ細かな指導も可能である。また、この活動をとおして文字、語句、文法に対する意識も高まり、ひいては個人の言語感覚の育成にも役立つものである。

（下線は引用者による）

すなわち、ただ文章を読むだけでなく、自ら書くことにより、そこで用いられている言語に対して、より微細な気づきを得られるということであろう。

このような効果を持つ視写を、青木（1986）⁶⁾は、「書写」もしくは「作文」に分類されない「第三の書く」の主要な一部と捉え、表1のように体系化している。

表1. 「第三の書く」とその体系化（青木1986）

<ul style="list-style-type: none"> ●文章の総合的理解 ●豊かに読む ●主体的な読み ●表現力の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語（変身作文） ○詩歌（散文化） ○説明（伝達 解説） ○伝記（本作り） ○その他 	<p>書くために読む</p> <p>総合</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●読むことの方法を学ぶ ●いろいろな書くを生かした確かな読み ●文、文章に密着して読む力 	<ul style="list-style-type: none"> メモをとる 聴写をする 筆答を書く 書抜きをする 書込みをする 書足しをする 書きまとめをする 質問・意見・乾燥 図式化 その他 	<p>読むために書く</p> <p>展開</p>
<ul style="list-style-type: none"> ●速く書ける ●書き慣れる ●文字、語句、表記、文法 ●確かな読み ●など 	<p>視写をする</p>	<p>基礎</p>

「基礎」の欄に視写が位置づけられており、その効用として、書き慣れること、筆記速度の向上、文字・語句・表記・文法といった文以下の単位での正確さの向上が掲げられている。

視写の、学習活動としてのこのような特質は、文部科学省が帰国生徒への日本語指導に視写の効果を認めていることから、外国語学習にも当てはまることが期待される。特に、本校の生徒に対しては、文以下の単位での個別的な表現の習得と、まとまりのある文章を（疑似的な形ではあるが）書き慣れること、という2点についての効果を見込みたい。

3. 『視写の書』の導入

視写を授業内での学習活動として導入するにあたり、次の点に留意した。

- (1) 主教材とは独立した活動とし、帯学習の形で継続的に実施すること。
- (2) 大学入試での出題を基準に、1つのモデル文の分量を80～130語程度にすること。つまり、文以下の単位での言語材料のみに焦点を当てた視写ではなく、ディスコース全体を視写する活動とすること。
- (3) 語彙の拡充のために、多様な話題、特に教科書ではあまり扱われない、社会的に議論の分かれる話題を重点的に取り上げること。ただし、中立性の観点から、偏った意見のみを取り上げることのないよう、可能な限り多様な意見のバランスに配慮すること。
- (4) 未知語の処理等、読解にかかる負荷を軽減するため、モデル文には全訳を付すこと。
- (5) ディスコース形成能力向上のために、モデル文は1パラグラフとし、「抽象→具体」の流れのある、意見文において典型的な構成を持つものとする。
- (6) 学習の成果を可視化し、自主学习・復習を容易にするために、散逸しやすいワークシートではなく、専用の冊子教材を使用すること。

これらのことから、筆者は独自教材『視写の書』^(註2)を作成した。『視写の書』は、全部で15編^(註3)のモデル英文からなる。モデル英文はすべて筆者が書き下ろし、話題固有の語彙や、汎用的なディスコース・マーカーなど、生徒に習得してもらいたい語彙を意図的に含めた。(Appendix 1)

次は、『視写の書』のモデル英文の例である。下線太字は本稿での議論のために付したもので、生徒

が使用した教材にはないものである。

第6回 クローン技術

クローン技術はこれまで議論的であった。自然に反するものだから禁止するべきだと主張する人もいる。そういう人たちは、人間は思うままに生命を創り出してはならないと言う。また、クローン技術は未熟で、実用に供するには危険が大きすぎると言う。もし失敗して、何らかの危険な生命を生み出してしまっても、我々は責任が取れないと彼らは主張する。しかし、違った考え方をする人もいる。たとえば、クローン技術は、絶滅の危機に瀕する生物種を絶滅から免れさせることができると言う。地球の生物多様性を回復するのに役立つというのだ。この問題について結論を出すのは時期尚早のようだ。

Cloning technology has been **a controversial issue**. Some argue that it should be banned because it is **against nature**. They say humans must not **produce life at will**. Besides, they say cloning technology is **still immature**, and it is too risky to **put it into practice**. We cannot take responsibility if we fail and accidentally produce some dangerous life, they argue. Some others, **however**, have different ideas. For example, they say that cloning technology can **prevent endangered species from going extinct**. It will **help restore the biodiversity of the earth**. It seems too early to **draw a conclusion** on this matter. (101 words)

太字下線に示した表現は、この話題に特有の語彙であったり、汎用的な表現であっても「コミュニケーション英語」の教科書などには出現しにくかったりするものである。これらの表現を個々の断片として、たとえばリスト学習のような形式で学習させることも可能であろうが、それよりも、このように個別の文脈の中で学習させた方が、文脈手がかりが付随するので、特に文脈固有的な知識を発揮するうえでは、より効果的であろうと考えた。

教材の体裁は、A4判の表面にモデル英文と日本語全訳を記載し、裏面は罫線のみ空欄とした。なお、モデル英文と全訳の記載順序は「全訳→英文」とした。これは、生徒が復習時に、和文英訳方式で学習することができるように配慮したためである。

使用方法については、『視写の書』に次のように

記載した。

このワークブックの使い方

- ・表（偶数ページ）の英文を裏（奇数ページ）に視写する。
- ・覚えておきたい表現に下線を付ける。

注意する点

- ・ページをめくる回数ができるだけ少なくなるようにがんばる。
- ・綴り字を含め、できるだけ正確に書き写せるようにがんばる。

視写した英文をページの裏面に記入するのは、ページをめくる手間をかけさせることで、なるべく大きな単位で英語を覚えさせるためである。ページと同じ面に視写する方式の場合、モデル英文と視写スペースが近く両者の往復が容易になるため、1～数語程度の小さな単位で逐語的に、多くの回数に分けて書き写すやり方を誘発する。しかし、ページをめくる「面倒くささ」が加わると、なるべくページをめくる回数を減らそうという心理が働き、なるべく多くの語数を一度に覚えようとする学習行動が出てきやすい。また、その分だけ記憶保持にも負荷がかかり、より大きな単位をより長い時間保持することになるため、逐語的な視写よりは学習効果が高くなると期待される。

授業においては、帯活動の一環として、当初は10分程度の時間を配当した。まず、教員の範読に従ってクラス一斉に音読し、その後、生徒が各自で視写を行った。実質的には8～9分程度での活動であった。しかし、後述のアンケート結果にも見られるように、視写速度の個人差が大きく、制限時間内に全文を書き写すことができなかつたり、かろうじて書き写せた場合も、書き写すこと自体が目的となつてしまい、あまり有効な学習活動になっていない様子が見受けられた。そのため、各自のペースで視写ができるように、途中から時間制限を廃し、主教材の学習と連続した時間の中で実施することとした。

4. 視写学習に対する生徒の反応

高校Ⅲ年生という、それなりに高い知性を備えた生徒に対して、ただ英文を視写するという学習活動を指示するには、筆者自身、若干の躊躇もあったが、意外にも生徒は抵抗なく受け入れたようで、毎時の帯活動の中で、真剣に取り組む姿が印象的であった。

2学期末に『視写の書』を終えた際、アンケート

調査（Appendix 2）を行い、視写および『視写の書』に対する生徒の反応を探った。以下に、その結果を示す。回答者数は36名であった。

項目1-1「英語表現の授業で視写に取り組む前から、自分で英語を学習する時に視写をしていましたか？」(5件法)

表2. 視写への取り組み（事前）

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
よくしていた	2	5.6
時々していた	3	8.3
たまにすることもあった	7	19.4
ほとんどしていなかった	5	13.9
まったくしていなかった	19	52.8

項目1-2「今後、自分で英語を学習する時に視写をしようと思いますか？」(5件法)

表3. 視写への取り組み（事後）

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
よくしようと思う	3	8.6
時々しようと思う	9	25.7
たまにしようと思う	13	37.1
あまりしようとは思わない	8	22.9
まったくしようとは思わない	2	5.7

『視写の書』による学習を経験する前と経験した後で、自分の学習に視写を取り入れることへの姿勢を問うた。経験する前は、「まったくしていなかった」が過半数を占めたのに対し、経験した後は、「まったくしようとは思わない」は2名のみで、「時々」「たまに」が大幅に多くなっている。全体としては、視写という学習方法に対して肯定的な姿勢が強まったと解釈できる。

項目2「英語表現の授業で視写に取り組んでみて、英語または英作文の学習方法として、自分にとってどのような感想を持っていますか。」(5件法)

「とても良く合っている」と回答した生徒は2名だけであるが、「ある程度」が半数近くおり、「可もなく不可もない」までを含めると9割を超える。つまり、それほど強くはないけれども、何らかの形で視写の有効性を感じている生徒が大多数という解釈ができる。

表 4. 視写との相性

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
自分にはとても良く合っている学習方法だと思う	2	5.6
自分にはある程度合っている学習方法だと思う	17	47.2
自分には可もなく不可もない学習方法だと思う	14	38.9
自分にはあまり合っていない学習方法だと思う	3	8.3
自分にはまったく合っていない学習方法だと思う	0	0

項目 3 「項目 2 の感想の理由を教えてください。」
(自由記述)

この項目には、全生徒が回答したわけではないが、一定の傾向が見てとれる。(記述があった分のすべての回答は Appendix 3 にまとめてある。)

項目 2 で「とても良く合っている」「ある程度合っている」と回答した生徒からは、

- ・自分の中の言い回しが増える
- ・視写して得た『文の作り方』やよりよい語法を自分の英作の中にたまに取り入れている

といった、語彙・表現が習得できる点や、

- ・見るだけより覚えられる
- ・読むだけよりは身につく
- ・冠詞を意識するようになった

といった、文章をより集中して読み書きすることで細部に意識が向く点を指摘する回答があった。

また、筆者としては想定外であったが、スペリングの習得を指摘する回答があった。

- ・スペルやイディオムをさりげに学べる
- ・細かい単語のスペルが分からなくなることが多いので、実際に手で書く機会が持てて良かった
- ・自分はスペルミスが多いから

また、

- ・英文を区切る、和訳、スペルの練習が同時にできるから

という、総合的な練習効果を指摘する回答もあった。

項目 4 「視写という学習方法では、どのような英語の力がどのくらいつくと思いますか。今までにすでに力がついたというのでも、継続したら力がつきそうだというのでもかまいません。

①語彙

②語法

③文法

④和文英訳

⑤自由英作文

⑥英文和訳

⑦長文読解

⑧リスニング

⑨スピーキング」(5件法)

表 5. 視写の効果①語彙

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とても力がつく・つきそう	7	19.4
ある程度力がつく・つきそう	20	55.6
可もなく不可もなく力がつく・つきそう	7	19.4
あまり力がつかない・つかなさそう	2	5.6
まったく力がつかない・つかなさそう	0	0

語彙の習得については、「とても」「ある程度」を合わせて7割以上の生徒が効果を感じており、当初の意図通りの結果が得られていると言える。

表 6. 視写の効果②語法

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とても力がつく・つきそう	4	11.1
ある程度力がつく・つきそう	24	66.7
可もなく不可もなく力がつく・つきそう	7	19.4
あまり力がつかない・つかなさそう	1	5.6
まったく力がつかない・つかなさそう	0	0

語法についても8割近くの生徒が効果を感じている。「語法」という用語に何をどこまで含めて理解しているかが生徒によって異なる可能性があるため、このアンケート結果の解釈には慎重にならねばならない面はあるが、それでも、文のマイクロな単位で視写の効果が感じられていることは確かであろう。

表7. 視写の効果③文法

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とても力がつく・つきそう	5	13.9
ある程度力がつく・つきそう	17	47.2
可もなく不可もなく力がつく・つきそう	11	30.6
あまり力がつかない・つかなさそう	3	8.3
まったく力がつかない・つかなさそう	0	0

文法については、語彙・語法に比べると肯定的回答が少なくなり、おそらくは「よくわからない」といった状態ではないかと推測される。個別的で可視的な語彙・語法に比べ、抽象的な規則である文法を習得したかどうか、生徒自身で判断するのが難しいという面もあるであろう。

表8. 視写の効果④和文英訳

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とても力がつく・つきそう	6	16.7
ある程度力がつく・つきそう	15	41.7
可もなく不可もなく力がつく・つきそう	10	27.8
あまり力がつかない・つかなさそう	5	13.9
まったく力がつかない・つかなさそう	0	0

和文英訳の力の向上についても、文法と似た回答結果となった。『視写の書』では全訳を与えてはいたが、訳文を見ることなく英文を書き写すことに集中していれば、当然ながら和文英訳の要素は薄れるので、このような回答になったと思われる。ただ、「あまり」「まったく」という明らかに否定的な回答よりも「可もなく不可もなく」を選ぶ生徒が多かったということは、教材の体裁や実施方法によっては、より肯定的な反応を得るように工夫する余地が残されているということであるかもしれない。

表9. 視写の効果⑤自由英作文

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とても力がつく・つきそう	8	22.2
ある程度力がつく・つきそう	20	55.6

可もなく不可もなく力がつく・つきそう	7	19.4
あまり力がつかない・つかなさそう	1	2.8
まったく力がつかない・つかなさそう	0	0

「自由英作文」という、ひじょうに大づかみな問方であるが、本来、本実践が目標とするのは自由英作文の力の向上であり、「とても」「ある程度」を合わせて8割近くの肯定的回答が得られたことは、本実践がいちおうの成功をおさめたことを示していると解釈できる。この項目の結果は、項目5の結果と併せて理解していきたい。

表10. 視写の効果⑥英文和訳

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とても力がつく・つきそう	4	11.1
ある程度力がつく・つきそう	14	38.9
可もなく不可もなく力がつく・つきそう	12	33.3
あまり力がつかない・つかなさそう	6	16.7
まったく力がつかない・つかなさそう	0	0

筆者としては視写の効果を期待していない項目であったが、意外なことに、半数の生徒が肯定的な回答をした。この結果について生徒にその意図を確認していないが、全訳を付しておいたことで、さまざまな表現をどのような日本語に訳せばよいかのサンプルを見ることができたため、このような結果になったのかもしれない。

表11. 視写の効果⑦長文読解

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とても力がつく・つきそう	1	2.8
ある程度力がつく・つきそう	17	47.2
可もなく不可もなく力がつく・つきそう	16	44.4
あまり力がつかない・つかなさそう	1	2.8
まったく力がつかない・つかなさそう	1	2.8

この項目も、筆者としては肯定的回答を期待して

いなかったが、一定数の生徒は効果を感じていたようである。

表12. 視写の効果⑧リスニング

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とても力がつく・つきそう	0	0
ある程度力がつく・つきそう	7	19.4
可もなく不可もなく力がつく・つきそう	13	36.1
あまり力がつかない・つかなさそう	11	30.6
まったく力がつかない・つかなさそう	5	13.9

この項目も、筆者が効果を期待していない項目で、じっさい、否定的回答が多くなった。特に、「とても」が0名で「まったく」を選択する生徒が5名いる。活動の性質を考えると、当然の結果であろう。1つの活動で幅広い力をカバーするのは無理であるという当たり前の事実の証明である。

ただ、少数ながら肯定的な回答をしている生徒がいることも見逃せない。おそらく、語彙が拡充されることや、モデル文の音読を通じて発音の練習ができることで、間接的な効果でリスニングの力が向上すると感じられているのかもしれない。そうであれば、視写教材を「聴写(ディクテーション)」に応用する可能性を検討してみてもよいかもしれない。

表13. 視写の効果⑨スピーキング

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とても力がつく・つきそう	0	0
ある程度力がつく・つきそう	10	27.8
可もなく不可もなく力がつく・つきそう	12	33.3
あまり力がつかない・つかなさそう	8	22.2
まったく力がつかない・つかなさそう	6	16.7

スピーキングについてもリスニングに近い回答結果となった。この項目においても、少数ではあるがリスニングよりは多くの生徒が「ある程度」を選んでいる。『視写の書』に全訳を付しており、それを口頭英作文の形で練習することにより、スピーキング力の向上にも、多少は貢献できる面があるのかもしれない。

項目5「自由英作文の学習法としての視写について教えてください。視写という学習方法では、どのような自由英作文の力がどのくらいつくと思いますか。今までにすでに力が付いた、というのでも、継続したら力がつきそう、というのでもかまいません。

- ①解答語数の感覚がつかめる
- ②パラグラフの構成・展開の感覚が身に付く
- ③幅広い話題で使える構文や語彙・表現が身に付く
- ④個別の話題で使える構文や語彙・表現が身に付く
- ⑤解答を書くスピードが向上する
- ⑥自由英作文を書く自信が向上する
- ⑦何となく力が付いた気になる(5件法)

表14. 視写の効果(自由英作文)①語数感覚

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とてもそう思う	5	13.9
ある程度そう思う	15	41.7
よくわからない	12	33.3
あまりそう思わない	3	8.3
まったくそう思わない	1	2.8

この項目は、筆者としては『視写の書』を通じて生徒に身につけてもらいたい力であったが、肯定的回答が半数程度にとどまっており、当初の目論見は必ずしも達成されたとは言えない結果となった。原因は明らかではないが、推測するに、英文を書き写すことに必死になってしまい、文章の細部に意識が向かないのと同様に、語数にも意識が向いていなかった可能性が考えられる。教材の体裁や実施方法の改善・工夫が必要であろう。

表15. 視写の効果(自由英作文)②構成・展開

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とてもそう思う	11	30.6
ある程度そう思う	12	33.3
よくわからない	10	27.8
あまりそう思わない	3	8.3
まったくそう思わない	0	2.8

この項目も、筆者が効果を期待していた項目である。「語数感覚」に比べると「とても」の割合が高くなっており、「とても」「ある程度」を合わせて6割以上を占めている。当初の期待どおりではなかったが、それでも一定の成果は収めたと考えてよいであろう。

表16. 視写の効果（自由英作文）③汎用的語彙

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とてもそう思う	10	27.8
ある程度そう思う	20	55.6
よくわからない	4	11.1
あまりそう思わない	2	5.6
まったくそう思わない	0	0

表17. 視写の効果（自由英作文）④話題別語彙

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とてもそう思う	7	19.4
ある程度そう思う	24	66.7
よくわからない	4	11.1
あまりそう思わない	1	2.8
まったくそう思わない	0	0

項目4で語彙については肯定的回答が多かったが、それを細分化して、どのような話題の文章を書くときにも使えそうな汎用的な語彙と、特定の話題について書くときに使えそうな個別的な語彙に分けて生徒の反応を問うた。しかし、両者とも「とても」「ある程度」を合わせて8割を超え、結果としては似たような傾向となった。

ただ、汎用的語彙の方が若干「とても」の人数が多いのは、『視写の書』において、複数のモデル文で繰り返し同じ語句・構文が使われていることで反復練習の効果が生じ、より強く印象に残る結果となったためかもしれない。

表18. 視写の効果（自由英作文）⑤筆記速度

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とてもそう思う	5	13.9
ある程度そう思う	12	33.3
よくわからない	13	36.1
あまりそう思わない	6	16.7
まったくそう思わない	0	0

この項目については回答が分散した。高校Ⅲ年生という段階でもあり、15回程度の視写では顕著な影響が出るほどの練習効果はなかったということかもしれない。それでも、4割以上の生徒は「とても」「ある程度」と回答しており、さらに長期間継続すれば、より明らかな効果が表れるかもしれない。

表19. 視写の効果（自由英作文）⑥自信

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とてもそう思う	1	2.8
ある程度そう思う	20	55.6
よくわからない	7	19.4
あまりそう思わない	7	19.4
まったくそう思わない	1	2.8

表20. 視写の効果（自由英作文）⑦力がついた気分

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
とてもそう思う	2	5.6
ある程度そう思う	19	52.8
よくわからない	12	33.3
あまりそう思わない	2	5.6
まったくそう思わない	1	2.8

「自信が向上する」については「ある程度」が半数を超えた。自由英作文を書き慣れていない生徒にとっては、視写という形で強制的にまとまった分量の英文を書く練習を積み重ねることで、多少なりとも「自分にも書ける」という自信が生まれるのかもしれない。

また、「何となく力が付いた気になる」というのは、きわめて漠然とした効力感を問うものであるが、これも肯定的回答が半数を超えた。

根拠のない自信がついたからといって何の意味があるかは議論の分かれるところであろうが、たとえば「100語」という語数を過重な負担に感じて自由英作文に及び腰になる生徒がいるとすれば、視写を通じて強制的に100語程度の文章を書かせることによって、その抵抗感を軽減することができるかもしれない。そのように考えると、実質はともかく、何となく「自分にも書ける」と生徒が思えることには意義があると言えよう。

項目6「その他に、視写という学習方法にこんな効果がある、と思いつくものがあれば、教えてください。」(自由記述)

回答は以下のようなものであった。

- ・英語のつながりや音が視覚的に入ってくる。
- ・英語がそのまま英語で入って出ていくので感覚が身に付く。
- ・名詞の感覚(冠詞, s,) + 前置詞
- ・全訳

- ・スペルミスの減少

回答は少数であるが、英文を総体として捉えることと細部が意識化されることという、両極端の感想が述べられているのが興味深い。

項目7『『視写の書』の英文レベルは、自分にとってどうでしたか。』(5件法)

表21.『視写の書』の難易度

選択肢	人数 (人)	割合 (%)
自分にとっては、とても難しかった	1	2.8
自分にとっては、少し難しかった	10	27.8
自分にとっては、ちょうど良かった	23	63.9
自分にとっては、少し簡単だった	1	2.8
自分にとっては、とても簡単だった	1	2.8

この項目に対しては、「ちょうど良かった」「少し難しかった」で9割を超えており、『視写の書』の教材としての難易度は、本校高校Ⅲ年生にとっては適切なものであったと言えよう。

筆者は当初、「とても難しかった」「少し難しかった」の回答がもう少し多いかと予測していたが、実際は上のような結果であった。この結果が意味することは、読んで理解するには苦勞しない英文が、いざ自分で書くととなると書けない、という、読む力と書く力の間にギャップがあるということであろう。すなわち、本校生徒は、読むとなれば、ある程度難しい語彙が含まれ、構文の複雑な文章でも理解することができるが、その知識が書くことには十分に活かされていない、ということである。

もとより、受信技能と発信技能には差があるのが当然ではあるが、受信技能用の英文を発信技能用に活用する指導を、さらに拡充すると、本校生徒の力をさらに伸ばすことにつながるのかもしれない。

項目8『『視写の書』に取り組んでみての感想を、何かあれば教えてください。(英文はもっと易しい方が良い、もっと多くの話題をカバーした方が良い、もっと英文は長い方が良い、など)』(自由記述)

回答は以下のようなものであった。

- ・視写した後の見直す時間が欲しい(家でやればいい話ですが・・・)
- ・人文系の話題が多いかな?と思ったので個人的にはとても楽しかったです。

- ・写すページにも日本語訳が欲しい。
- ・あくまで自分はだが、一年間通じて毎時間やれば、いくらやる気がなくてもある程度の定型表現は定着するのではないかなと感じた。
- ・和訳は下ではなくうしろにまとめてほしい
- ・中学生のときからやっておきたかった
- ・ちょうどよかった。
- ・地図の道案内とか。
- ・ちょうどいいと思います
- ・時間制限があるからみんな急いで写そうとするけど、中には頭で考えずにただ写しているということもあるから、文法、語法を注などにまとめたものがあればなと思った。
- ・もっと長い英文を視写してみたかった
- ・裏にかくというのがいやだった。横の方が良い。
- ・英作文するとき力が発揮されると思うので、便利な言い回しをピックアップしてほしいです。
- ・どっかの大学で出た構文を知りたい

筆者が『視写の書』実践を通じて意図していたことを正しく理解しているコメントもあれば、その意図に反するコメントもある。授業においては指導の意図は明確に説明していたので、このような反応の違いは、個々の生徒の学習者としての個人差によるものであろう。結局は万人に有効な指導法・学習法はないという、当然の結論が導かれるだけである。

なお、次のようなコメントも見られた。

- ・サブタイトルとして、「～あなたは使者～英文と和文の世界に架け橋を」など、もう1つアクセントを加えると、深みが増すと思う。

言葉で知的に遊ぼうとする姿勢が感じられ、頼もしく思われた。

5. 今後の展望

本年度の実践は、年度後半になってから始めた、あくまでパイロット的なものであった。『視写の書』に掲載したモデル英文の数も少なく、練習量としては十分ではなかった。

しかし、その限られた中でも視写に効果があることは見てとることができた。今後は、モデル英文をさらに書き下ろして数を充実させ、できれば高校Ⅰ・Ⅱ年生から、また通年で使用できる教材へと発展させて、視写の実践を継続していきたい。

[注]

(1) 松井(2008)は「ともすれば時間が無く、視写

を軽視しがちな高校段階では、最後は全文を音読し、初めから終わりまで筆写することが望ましいと考えます。」と述べている。⁷⁾ このように言明する必要があるほどに視写は等閑視あるいはほとんど無視されている状況であると言えよう。

- (2) 『視写の書』のネーミングは、古代エジプトにおいてピラミッドに副葬品として埋葬された『死者の書』のもじりである。ただし、そのことに気づいた生徒は少数であった。
- (3) 本実践を開始したのが2学期後半であったため、授業時数の制約からこの分量とした。本来は、もっと多くのモデル英文に触れるべきであると思われるので、さらに多くの英文を書き下ろした改訂版を作成中である。

[参考文献]

- 1) 山岡大基, 「パラグラフ・ライティングは「つながり」から「まとまり」へ」, 『中等教育研究紀要』第62号, 広島大学附属中・高等学校, 2016年, 71-78.
- 2) 山岡大基, 「まとまりのある文章を書くことの指導(2) - 視写・書き加え・書き換えによる段階的指導 -」, 『中等教育研究紀要』第48巻, 広島大学附属福山中・高等学校, 2008年, 229-234.
- 3) 巳野欣一・柳瀬眞子, 『国語力を高める視写・聴写・暗写の指導』, 明治図書, 2004年.
- 4) 文部科学省, 「9 視写」, 2002年,
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/003/002/009.htm, (閲覧日: 2016年12月10日).
- 5) 上掲書3) 116.
- 6) 青木幹勇, 『第三の書く』, 国土社, 1986年.
- 7) 松井孝志, 「第4章2 高等学校編」, 大井恭子(編著) 田畑光義・松井孝志(著), 『パラグラフ・ライティング入門』, 大修館書店, 2008年, 188.

広島大学附属高校
視写の書



- このワークブックの使い方
- ・表(偶数ページ)の英文を裏(奇数ページ)に視写する。
 - ・覚えておきたい表現に下線を付ける。

- 注意する点
- ・ページをめくる回数ができるだけ少なくなるようにがんばる。
 - ・綴り字を含め、できるだけ正確に書き写せるようにがんばる。



【例文①】日本の教育(1)

今日の子どもたちが生きていく未来について、正確な予測が立てられなくなっていることを考えれば、日本政府は教育政策が本当に見直されるべきである。この見直しは単に世界に追いつくこと、将来の高度な知識や技術が求められる社会に備えることだけでなく、学校教育は、子どもたちに、どのような学習態度を身に付けるべきかを教えることである。しかし、日本の学校は協賛のモデルに重きを置ける方法を知っているが、自分でゴールを設定してのペースを絶つことができない。学校教育に対する批判は多いが、この状況を克服することはできず、思い切った改革を断るべきである。

It is urgent that the Japanese government review its education policy when we consider that we have less and less accurate prediction of the future when today's children have to live. In this rapidly changing world, nobody knows for sure what knowledge and skills will be required in the future; therefore school education should help children prepare for the unpredictable future. However, there has been a lot of criticism against Japan's school education, arguing that Japanese students know how to reach the goal quickly that already exists, but cannot set a goal for themselves and create innovation. This situation cannot be overlooked, and drastic measures should be taken. (108 words)

【例文②】日本の教育(2)

日本の教育は概して進んでいるけれども、変化する社会に必要となる人間社会が変化を促すことは、常に子どもが学ぶべきものである。日本の学校はそれを教えるべきである。その点から、従来の学校や教師について日本は上意に固執している。もちろん、何も改善しないことがないわけではない。たとえば、日本人の外国語の技能は、早稲に比べて低い。この点を改善し、外国語を教えるべきである。長年積み重ねてきた内容や方法を捨てるのは賢明ではない。早稲は長年かけて身につけたものでなく、断ち切っているものではない。少しずつ前進すべきである。

Japan's education has generally been working well and it does not have to be changed in haste. No matter how much human societies change, there are always things for children to learn, and Japanese schools have taught them well. This is proved by the country's high rankings in international surveys on academic ability. It is not that there is nothing to improve, of course. Foreign language skills, for example, are embarrassingly poor among Japanese, young or old, and something must be done about it. However, it is not wise to throw away the contents and methods that have been accumulated over the long years. Instead of jumping to something new and fashionable, we should appreciate what we already have and make our way forward step by step. (127 words)

Appendix 2 生徒対象アンケート（書式は本稿に合わせて改変している）

視写という学習方法についてのアンケート

※これは、英語指導法・学習法の改善に向けた参考資料にするためのものです。皆さんの意見を教えてください。

(1) 英語表現の授業で視写に取り組む前から、自分で英語を学習する時に視写をしていましたか？また、今後、自分で英語を学習する時に視写をしようと思いますか？当てはまるものを1つだけ選んで○印を付けてください。

5 よくしていた	5 よくしようと思う
4 時々していた	4 時々しようと思う
3 たまにすることもあった	3 たまにしようと思う
2 ほとんどしていなかった	2 あまりしようとは思わない
1 まったくしていなかった	1 まったくしようとは思わない

(2) 英語表現の授業で視写に取り組んでみて、英語または英作文の学習方法として、自分にとってはどのような感想を持っていますか。当てはまるものを1つだけ選んで○印を付けてください。

5 自分にはとても良く合っている学習方法だと思う。	2 自分にはあまり合っていない学習方法だと思う。
4 自分にはある程度合っている学習方法だと思う。	1 自分にはまったく合っていない学習方法だと思う。
3 自分には可もなく不可もない学習方法だと思う。	

(3) (2)の感想の理由を教えてください。

(4) 視写という学習方法では、どのような英語の力がどのくらいつくと思いますか。今までにすでに力がついたというでも、継続したら力がつきそうだというでもかまいません。当てはまるものを1つずつ選んで○印を付けてください。

①語彙 ②語法 ③文法 ④和文英訳 ⑤自由英作文 ⑥英文和訳 ⑦長文読解 ⑧リスニング ⑨スピーキング

とても力がつく・つきそう	ある程度力がつく・つきそう	可もなく不可もなく力がつく・つきそう	あまり力がつかない・つかなさそう	まったく力がつかない・つかなさそう
5	4	3	2	1

自由英作文の学習法としての視写について教えてください。視写という学習方法では、どのような自由英作文の力がどのくらいつくと思いますか。今までにすでに力がついた、というでも、継続したら力がつきそう、というでもかまいません。当てはまるものを1つずつ選んで○印を付けてください。

①解答語数の感覚がつかめる	⑤解答を書くスピードが向上する
②パラグラフの構成・展開の感覚が身に付く	⑥自由英作文を書く自信が向上する
③幅広い話題で使える構文や語彙・表現が身に付く	⑦何となく力が付いた気になる
④個別の話題で使える構文や語彙・表現が身に付く	

(5)

とてもそう思う	ある程度そう思う	よくわからない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
5	4	3	2	1

(6) その他に、視写という学習方法にこんな効果がある、と思いつくものがあれば、教えてください。

教材『視写の書』について教えてください。

(7) 『視写の書』の英文レベルは、自分にとってどうでしたか。当てはまるものを1つだけ選んで○印を付けてください。

5 自分にとっては、とても難しかった。	2 自分にとっては、少し簡単だった。
4 自分にとっては、少し難しかった。	1 自分にとっては、とても簡単だった。
3 自分にとっては、ちょうど良かった。	

(8) 『視写の書』に取り組んでみての感想を、何かあれば教えてください。(英文はもっと易しい方が良い、もっと多くの話題をカバーした方が良い、もっと英文は長い方が良い、など)

ご協力ありがとうございました。

Appendix 3 項目3への回答

項目2で「5自分にはとても良く合っている学習方法だと思う」と回答した生徒の記述

- ・文法など自然に身に付きそうだから
- ・見るだけより覚えられるから

項目2で「4自分にはある程度合っている学習方法だと思う」と回答した生徒の記述

- ・スペルやイディオムをさりげに学べるから
- ・視写して得た「文の作り方」やよりよい語法を自分の英作の中にたまに取り入れているので。
- ・細かい単語のスペルが分からなくなることが多いので、実際に手で書く機会が持てて良かったです。
- ・冠詞を意識するようになった
- ・英文を区切る、和訳、スペルの練習が同時にできるから
- ・自分はスペルミスが多いから
- ・中間や期末の前に Write to the Point を勉強したときに視写をしたほうがよい点を取れた気がした。
- ・英作文がすごくできるわけではないから。
- ・読むだけよりは身につくから
- ・自分の分からない表現などを確認することができたから
- ・どんな文か思い出しながら書くときに、自分がいまいち使いこなせない表現が分かる。
- ・自分の中の言い回しが増えるから、自分で作文するのは経験できないパタンの文を書けた。(ただし、文章の構成を把握・真似することにはつなげられなかった)
- ・決まった表現をもっと知りたいから

項目2で「3自分には可もなく不可もない学習方法だと思う」と回答した生徒の記述

- ・よくわからんから
- ・あまり効果を実感できなかったが、それは期間の短さによるものだと思うから
- ・しても点数はかわらない
- ・英作には慣れると思うけど、単語や熟語を覚えたほうが書けるようになると思うから。
- ・(4)の能力はつきそうだが、時間がないから
- ・写すだけで時間が足りなくて精いっぱいだった
- ・英作文の力はまあまあつくと思ったから。
- ・ふつうに長文を読むほうが向いているかなと思った。(視写も悪くはないが)
- ・無駄ではないが、書き写すことに精一杯になってしまい、知識が定着したという実感は大きくない。
- ・時間がやたらかかる
- ・話題ごとの考え方・書き方は分かるけど話題の範囲が広くはないから入試という面では普通という感じ。

項目2で「2自分にはあまり合っていない学習方法だと思う」と回答した生徒の記述

- ・気づけば写しているだけで内容が頭に入ってこないことが多かった
- ・視写が本当に視写だけになってしまっていた(頭を使わず、手だけ動いていた)
- ・作業になってしまって、あまり印象に残らないから

